壬生町政だより

40 年 9 月号

No. 81
毎月1回発行
発行所　栃木県壬生町役場
印刷所　株式会社　新生社

諸統計より

口統計		
昭和40年9月1日現在		対前月比
総人口	24,203人	54人増
男	11,868人	34人〃
女	12,335人	20人〃
世帯数	4,781世帯	6世帯〃

全国民謡おどりで慰安
県下一の長寿山崎さん
壬生町の敬老会

壬生町の昭和四十年度敬老会は九月二十八日午前十時から、壬生町中央公民館で開催されました。本年の七十才以上の方は（明治二十八年十二月三十一日以前出生）合計で一、一五四名、昨年より九名増えております。その後壬生町踊りの会による全国民謡おどりがあり、楽しい慰安の一日でした。

とくに今回は仲通町山崎豊三郎さん（百才）には総理大臣表彰、知事表彰など、羽生田山名キチさん（九十五才）には知事表彰があり九月十七日横川栃木県知事が、お祝いのために自宅に訪問され元気でより長生きされるよう励まされました。

上＝県知事から表彰を受ける山崎豊三郎さん

下＝同　山名キチさん

校歌を制定
藤井小学校

藤井小学校では、さきごろ校歌をつくることになり、作詩を塩原町の泉漾太郎氏（詩人、県文化功労章受賞、下野新聞文芸選者）作曲を東京都中野区在住の平岡均之氏（泉氏の友人）に依頼の結果つぎのような立派な校歌ができあがり、九月三十日に校歌制定式と自衛隊による祝賀演奏会、運動会を盛大に挙行いたしました。

作詩　泉漾太郎
作曲　平岡均之

こころ　ひとつに
希望を胸に　清きを胸に
通う　藤井の小学校に　集う　藤井の小学校に
花がほほえむ　揺藍の藤　風がささやく　洗心の松
学びて　励みて
友ようつくしく　友よつつましく
やさしくかざれ　たたえてほこれ
わが母校　わが母校
澄める　黒川　以下略

給食室が完成
完全給食へ
壬生小学校

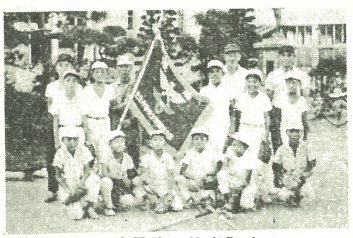
壬生小学校の給食室の建設は、予定どおり九月八日に完成し、九月十六日から完全給食を開始することになりました。

この給食室は総工費百五十二万円で建坪は一五六・三二平方メートル、（四十六坪）木造瓦棒ぶきの平家建です。この建物のほかに壬生小教育後援会とPTAで七十万円をかけて、内部設備などを完備しました。

男子は城東町、女子は城内が優勝
第二回 壬小町内球技大会

第二回壬生小学校地域町内少年少女球技大会は八月二十日、二十一日、二十六日の三日間にわたって壬生小校庭で行われました。その結果男子の野球は城東が優勝。準優勝は西高野、三位は城南でした。また女子のソフトボールは城内が優勝。準優勝は城南、三位は下馬木でした。

これは昨年同校創立九十周年記念とオリンピックの年でもあったので、この年を長く記念しようと当時の上野PTA会長さんや、和貝茂男さん等が骨をおってつくったものです。これらのスポーツが今年は非常に同校の生徒、父兄をしげきし、夏休み中はどこの町内も父兄と一緒になって練習をしたりして児童や父兄からも非常に喜ばれました。



男子野球優勝の城東町チーム

ソフトボールの優勝城内チーム

農業技術研修所と農業短期大学校できる

県が全国初めてのケースとして、宇都宮市瓦谷町に建築中だった農業技術研修所と農業短期大学校が、このほど完成しました。

農業技術研修所は、農家のよき相談相手となる改良普及員などの研修の場としてもうけられたものです。また、農業短期大学校は、時代にあった立派な農村指導者の養成をねらいとしたもので、高校を卒業して、将来農村の指導者を目ざしている人たちのためにつくられたものです。

この施設ができたことによって、これからは立派な指導者が送りこまれていくことでしょうが、せっかくできたこの施設を、みんなでもりたてていかれるよう、みなさまのご協力をおねがいします。

レントゲン検診はなぜ必要か

（解説）

「レントゲン」検診に行って何時でも聞く言葉ですが「自分は今まで一回も病気したこともないし元気だから、レントゲン検診を受ける必要はないだろう」しかし、事実はこのような元気な人たちの中からたくさんの結核患者が発見されております。「レントゲン」検診は元気な人達の中から潜在した結核患者を発見して早期に治療を行って他への伝染を防ぐために実施しているのです。

結核は軽症のうちは自覚症状がないため「自分は健康である」と思っていますが、しかし、健康そうに見える人の中にも結核患者はたくさんいるのです。そしてこれらの人が知らず、知らずの間に他の人々に伝染しているのです。このような無自覚性の結核は「レントゲン」検診によるほかに発見の方法はないのです。また、身体の異常のある人達が結核と診断されるのをおそれて検診を受けない人もありますがこのような人達はなおさら早く「レントゲン」検診を受けることが必要です。

それでないと治療の時期を失して病状は進んでついには手おくれになることになります。元気な人も異常のある人も全員「レントゲン」検診をお受け下さい。検診を受けることは自分自身のためでありまた家族のためでもあります。

なお、レントゲン検診を十月十一日から十一月十六日まで各地区で実施されますが日程その他くわしいことは回らんでお知らせします。

職業訓練生の募集

栃木職業訓練所では、昭和四十一年度の訓練生を募集しております。

◇募集人員
機械科　四十名
溶接科　二十名
電気科　二十名
機械仕上科　二十名

◇募集期間
十一月二十日～十二月十日まで

◇試験
一月上旬予定

◇問合せ先
栃木公共職業安定所へ

県職員募集

県人事委員会では、学校事務員、警察事務員の初級試験を次のように行います。

◇受付期間
十月一日～十月十五日

◇試験日　十月三十一日

◇場所
県立宇都宮商業高校

◇問合せ先
県庁内
栃木県人事委員会

栃木県学生寮の入寮者募集

◇所在地
東京都目黒区上目黒

◇入寮資格
栃木県出身の学生で、東京都または隣接県に所在する大学に在籍する学生ならびに、昭和四十一年四月に大学入学を希望する者

◇経費
寮費年額一万二千円
賄費月額四千二百円

◇問合せ先
栃木県庁文書課内栃木県育英会

十月の納税

保険税　第四期分
町県民税　第三期分

洋画、文芸の募集
栃木県芸術祭

いよいよ秋です。県芸術祭にふるってご参加ください。洋画と文芸部会の応募規定をみると

▽洋画部
県内在住者。種目は油絵水彩、パステル、版画、素描など出品点数三点以内、搬入は栃木会館ギャラリー。日時は十一月二十七、二十八日、午前十時から四時まで。会期は十二月二日～六日

▽文芸部
(イ)創作、評論＝四〇〇字詰原稿用紙五〇枚以内
(ロ)詩＝三編以内、原稿用紙使用
(ハ)短歌、俳句、川柳＝各五首五句
応募方法＝未発表のもの住所氏名を明記、用紙には「俳句」「川柳」と明記。
投稿先＝宇都宮郵便局区内　県庁内　栃木県芸術祭運営協議会文芸部会あて
〆切り＝十月十五日
入選発表＝十一月中旬、県下各新聞紙上で発表、本人に通知する。

お知らせ

稲の刈り取りは適期に

その見分け方

最近労働力の減少により、刈取期が遅れがちで胴割米が多くなり、光沢も悪く、品質、食味等が劣り、穂切れや脱粒が多くなって減収し、倒れたり折れたりしやすく刈取りや脱穀作業に労力を多く要します。

また早刈の場合はしいなや青米が多く収量、品質共劣るので適期に収穫しましょう。

適期刈取りとは、品質が最も良く収量が最も多い時期ですが最近は特に品質に重点が置かれていますので刈取り適期よりやや早い時期（三日位）です。

刈取り適期の見分け方は天候、栽培法、品種等により異なりますが次の点も考慮して決定します。

(一)籾粒が大部分（九割以上）黄変した時

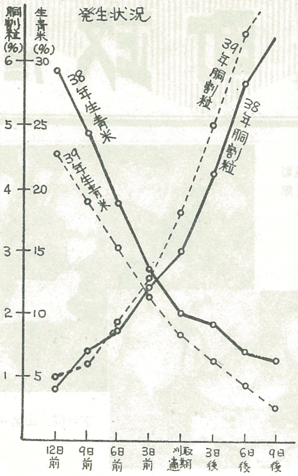
(二)穂梗（親軸）の三分の一以上黄変した時

(三)出穂後の日数を目安とする。

早生種　約四〇日
中生種　四〇～四五日
晩生種　四五日内外
早期栽培三〇～三五日

左のグラフを参照

稲の立毛中における胴割粒生青米発生状況



共同防除の効果は大

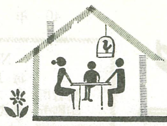
農薬航空撒布事業

壬生町の農薬航空撒布事業は、各関係機関の協力によって、八月十五、十六日の両日にわたって実施いたしました。

今回の防除面積は一、一八〇ヘクタール、関係農家は二、一〇〇戸が挙って同意されました。両日ともほとんど無風状態の好天気に恵まれ、延六機のヘリコプターが十分にその機能を発揮できました。新農薬ナック水銀剤による、イモチ病とツマグロヨコバイの同時防除は予想を上廻る成果をあげました。穂首イモチ病は異状天候下の多発予想を、完全に防除した模様です。ツマグロヨコバイも予期した効果をあげました

病虫害の防除は、個々に行っていたのでは効果がありませんが、今回のような空中撒布、または地上撒布を問わず一斉に共同防除を行うことが、その効果を更に倍加することがわかりました。

今後、町としても出来る限り共同防除方式をとることによって、農家の生産意欲を盛り上げようとしています。



合併予備契約に調印

合併期日は四十一年三月一日

壬生町にある五つの農業協同組合の合併については、さきの頃、各農協により部落座談会を開いた結果、有線放送網をつくれ、各種集荷所の設置、営農指導体制の確立など合併について建設的意見が多く出されました。

ついで、九月二日には五つの農協組合長理事により、「合併予備契約」が小田垣壬生町農協合併協議会長立合いのもとに役場で調印が行われました。

その契約書によると

▽合併期日を昭和四十一年三月一日を目標とする。

▽合併についての各農協の総会を十月末日に開く予定。

▽新組合設立委員会をつくって新組合の設立に必要な事項をまとめる。

▽名称は壬生町農業協同組合という。

その他、合併にかかわる十七条にわたる点が確認されました。

写真＝調印をする各組合長

10月1日

国勢調査

国勢調査にご協力を

今年の十月一日には、全国いっせいに国勢調査が行われます。

この国勢調査は国のもっとも基本的な統計調査で、全国はもちろん都道府県、市町村ごとの人口の大きさや男女、年令、職業などの人口の構成を明らかにするため、五年ごとにれています。

国勢調査の結果は、国や都道府県、市町村などが、教育、住宅、地域開発、求人求職、環境衛生、交通など、いろいろな問題の対策をたてる場合に欠かすことのできない資料となります。

たとえば新しく学校をたてたり保健所を作ったり、職業訓練や職業紹介の仕事を計画する場合にも住民についての正確な統計が必要になってきます。

とくに、最近、就職や出かせぎなどで農村から都市へ移動する人がふえていますので、市町村の人口の大きさや、男女、年令、職業などの構成がかなり変わってきていると考えられます。

国勢調査は、九千八百万人にのぼると予想される日本の全人口を全国一せいにもれなく調査する大規模な調査です。

この調査を完全に実施するためには、町民の皆様のご理解とご協力がぜひ必要です。

各家庭には九月二十四日から調査員がお伺いして調査票への記入をお願いすることになっています。

ぜひ、ご協力ください。

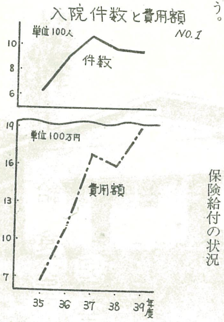
保険給付からみた五年の歩み

壬生町の国民健康保険事業は、発足以来満五カ年を経過しました。過去五カ年の歩みを振り返ってみて、入院や外来加療などの支払い、つまり保険給付の移り変わりに焦点をしぼってみましょう。

保険給付の状況

その前に現在、この保険に加入している世帯は三、四三九世帯（壬生町全世帯の70%）、被保険者数は一七、四三九人（壬生町全人口の70%）の多数が加入しております。

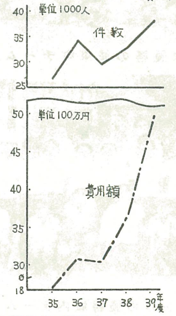
入院件数と費用額



(一)まず初めに**入院患者**については、入院の件数と、その費用額をグラフNo.1で表わしてみると、件数は漸増、その費用額は初めの三十五年度の三倍に達しています。（費用額＝国保負担＋本人負担＋結核予防法による国の負担。）

(二)次に**入院外**＝外来患者、グラフNo.2のとおり件数では三十九年度は当初三十五年度の一・五倍、費用も二・八倍と利用されています。（費用額＝国保負担＋本人負担＋結核予防法による国負担）

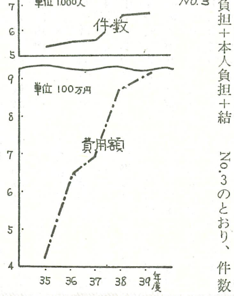
入院外件数と費用額



(三)**歯科**

歯科の方ではグラフNo.3のとおり、件数は漸増、費用額では三十九年度で当初の一・七倍と利用度も増えている状態です。（費用額＝国保負担＋本人負担）

歯科件数と費用額



外国人登録証明書のきりかえ

本年は、全国的に外国人登録証明書の切替えが行われます。

壬生町に居住している皆様には既にハガキで連絡してあるとおり、八月から十一月までにかけて役場総務課戸籍係に申請して下さい。

申請には次の書類が必要です。

一、外国人登録証明書及び印判のある方は印判持参

二、旅券（交付を受けていない方は不要）

三、最近六カ月以内に撮影した写真三枚（正面無帽、十四才未満の方は不要）

本人が役場へ来て確認申請をされるようお願いいたします。

"赤い羽根"にご協力を―

ことしの県募金目標額は、三千二百八十三万円と定められました。例年どおり十月一日から全県下にわたって募金活動が進められます。

ことしもまた、あたたかい心を倍にご協力くださるようお願いします。

壬生史帖

戦国の壬生

四、壬生氏の滅亡

壬生氏の勢力は三代綱房から四代綱雄にかけてが最盛期で当時その領地は南は大宮村から北は足尾高原山にのびてその高一万貫「約十余万石」に及んだ。一書には二十余万石とある。しかし綱雄が叔父徳節斎に暗殺されてから内外多事漸く衰勢のきざしを示してきた。天正十二年小田原の北条氏が常陸の佐竹氏を味方として皆川に来襲した時には勿論壬生氏は多年の盟友皆川氏に味方した。特に五代壬生義雄の妹鶴姫は城主皆川広照の妻となっている関係もあった。

皆川対北条の主戦場は太平山で、七月から九月まで二カ月余の長きに及んで攻守勝敗決せず遂に和睦した。一方その間押原で対陣していた壬生対佐竹の戦線でも小競合があった。古記録によればその頃から新兵器として登場し始めた火薬で壬生勢が佐竹勢を悩したことが面白くおかしく書かれている。

結局は皆川氏も壬生氏も小山氏も関東一円に勢力を張っていた北条氏の幕下とならざるを得ずその指揮の下に属することになった。

この頃中央では本能寺で織田信長が逆臣明智光秀に殺されその光秀も豊臣秀吉に討たれた。その後数年たらずして秀吉は殆んど全国を統一して残る関東の北条氏を小田原城に包囲した。時に天正十八年の春の頃からである。秀吉は長囲の陣を張りその間関東各地の北条幕下の諸城を攻略した。壬生義雄は一万余騎を従いて小田原城竹の浦口の防備に任じていた。城内では兵糧に困り離反するものも出て遂に七月六日に降参開城することになった。壬生義雄も武運拙く三十九才を最期として主従共翌々八日に自害して果てた。ここに壬生氏は五代約百三十年で滅亡したのである。

義雄の墓は常楽寺にありその法名は寛光院殿雄山文莫大居士という。この時生死を共にした壬生家遺臣の子孫が当地方には数多くのこっている。

小田原落城によって生じた下野南半の諸豪族の変動を述べれば大略次の通りである。壬生氏は潔く自害して滅び、小山氏、足利の長尾氏等は所領を没収されて流浪の身となり、皆川氏宇都宮氏等は秀吉に降参を許されて僅に存続した。但し宇都宮氏は数年後ある事により て滅びてしまった。ただ佐野氏のみが秀吉家康と特別の関係があり、無事安泰であることが出来た。

（福田）

壬生義雄氏の墓